

令和5年度

教 育 要 項

介 護 福 祉 科

学校法人 東洋学園

宮崎医療管理専門学校

目 次

序 文
授業科目及び単位数
時間割表

第1学年

人間の理解Ⅰ	1
人間の理解Ⅱ	2
社会の理解Ⅰ	3
社会の理解Ⅱ	4
介護の基本Ⅰ	6
コミュニケーション技術Ⅰ	8
コミュニケーション技術Ⅱ	9
コミュニケーション技術Ⅲ	10
生活支援技術Ⅰ	12
生活支援技術Ⅲ	13
介護過程Ⅰ	15
介護総合演習Ⅰ	17
介護実習Ⅰ	19
介護実習ⅡA	20
発達と老化の理解Ⅰ	21
発達と老化の理解Ⅱ	22
認知症の理解Ⅰ	23
こころとからだのしくみⅠ	24
こころとからだのしくみⅡ	25
医療的ケアⅠ	27
情報機器演習	29
介護レクリエーション実践	30
全学連携演習1・2	31

第2学年

人間の理解Ⅲ	32
社会の理解Ⅲ	33
介護の基本Ⅱ	35
生活支援技術Ⅱ	37
生活支援技術Ⅳ	40
介護過程Ⅱ	42
介護過程Ⅲ	43
介護総合演習Ⅱ	45
介護実習ⅡB	47
認知症の理解Ⅱ	48
障害の理解Ⅰ	49
障害の理解Ⅱ	50
こころとからだのしくみⅢ	52
医療的ケアⅡ	53
全学連携演習1・2	55

序 文

現代の社会において、人々の抱える様々な問題に対し、誰もが安心して暮らしていける仕組みづくりが求められています。特に、人々が自立した日常生活を営むことができるための適切な医療・福祉サービスの提供、また医療・福祉・保健の有機的な連携と地域福祉の更なる推進が今後ますます求められてまいります。また、それらの中でそれぞれの専門職が知識や技術を活用しつつ、多職種と連携し人々の生活を支えていくことが重要となります。

本校では、各学科において、高度な知識や技術の習得と情操豊かな人間性の確立をふまえた専門職の養成を行っております。特に、患者さんや利用者の方々の立場にたったサービスが提供できるマネジメント力を身につけるため、医療情報管理科では情報関連の複数の科目を連携させたデータサイエンス、介護福祉科ではヘルスアセスメントに大切なバイタルサインの学習、こども科では卒業と同時に幼稚園教諭資格が取得でき、さらに短期大学士（幼児教育学）の称号が得られる特色あるカリキュラムを設定しています。

この教育要項は、本校で学ぶ各学科の教科目について「学習目的・目標・内容」等の指針が示されています。これらは皆さんが計画的かつ主体的に学んでいくための重要な情報で学習意欲の向上に役立つものです。学習内容の理解をより深めるために、授業前の学習準備を含め科目間の関連をよく把握し、この教育要項を十分に活用することを希望します。

昨今、様々な職種で人材不足が叫ばれている中、皆さんは将来、医療機関や社会福祉関係施設、幼児教育施設、その他関連した職場で、マネジメントリーダーとしての活躍が期待されています。それぞれの職種に必要とされる専門的な知識や技術を習得し、強い精神力と行動力の発揮できる人材を目指して下さい。そして、本校の建学の精神「よき医療・福祉従事者であるとともに情操豊かな人格者であれ」という人間性の確立を目指し勉学に励むことを期待します。

なお、各教科に関連する専門図書を多数用意しておりますので、学習内容を補強するためにも、図書室の有効活用を奨励します。

令和5年4月1日

学 校 長 川野竜太郎

【介護福祉科】

授 業 科 目		単位数	時間数	授業形態			学 年	
				講義	演習	実習	1年	2年
人間と社会	人間の理解Ⅰ	2	30	○			○	
	人間の理解Ⅱ	2	30	○			○	
	人間の理解Ⅲ	2	30	○				○
	社会の理解Ⅰ	2	30	○			○	
	社会の理解Ⅱ	4	60	○			○	○
	社会の理解Ⅲ	4	60	○				○
介 護	介護の基本Ⅰ	6	90	○			○	
	介護の基本Ⅱ	6	90	○				○
	コミュニケーション技術Ⅰ	2	30	○			○	
	コミュニケーション技術Ⅱ	1	15		○		○	
	コミュニケーション技術Ⅲ	1	15		○		○	
	生活支援技術Ⅰ	2	30	○			○	
	生活支援技術Ⅱ	3	90		○			○
	生活支援技術Ⅲ	3	90		○		○	
	生活支援技術Ⅳ	3	90		○			○
	介護過程Ⅰ	2	60		○		○	
	介護過程Ⅱ	1	30		○			○
	介護過程Ⅲ	2	60		○			○
	介護総合演習Ⅰ	2	60		○		○	
	介護総合演習Ⅱ	2	60		○			○
	介護実習Ⅰ	2	90			○	○	
	介護実習ⅡA	4	180			○	○	
介護実習ⅡB	4	180			○		○	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	2	30	○			○	
	発達と老化の理解Ⅱ	2	30	○			○	
	認知症の理解Ⅰ	2	30	○			○	
	認知症の理解Ⅱ	2	30	○				○
	障害の理解Ⅰ	2	30	○				○
	障害の理解Ⅱ	2	30	○				○
	こころとからだのしくみⅠ	2	30	○			○	
	こころとからだのしくみⅡ	4	60	○			○	
	こころとからだのしくみⅢ	2	30	○				○
医療的ケア	医療的ケアⅠ	5	75	○			○	
	医療的ケアⅡ	1	30		○			○
その他	情報機器演習	1	30		○		○	
	介護レクリエーション実践	1	30		○		○	
	全学連携演習1	1	15		○		○	
	全学連携演習2	1	15		○			○
合 計		92	1,995					

令和5年度 介護福祉科 時間割

1年 前期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	介護の基本 I	生活支援技術Ⅲ	コミュニケーション技術Ⅲ	介護過程 I	介護レクリエーション実践	
2	10:50 12:20	介護の基本 I	生活支援技術Ⅲ	発達と老化の理解 I	人間の理解 I	介護レクリエーション実践	
3	13:10 14:40	こころとからだのしくみ I/II	コミュニケーション技術 I	介護総合演習 I	情報機器演習		
4	14:50 16:20	こころとからだのしくみ I/II	生活支援技術 I		ガイダンス・全学連携演習		

1年 後期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	発達と老化の理解 II	生活支援技術Ⅲ	医療的ケア I	こころとからだのしくみ II	介護の基本 I	
2	10:50 12:20	コミュニケーション技術 II	生活支援技術Ⅲ	医療的ケア I	社会の理解 II	介護の基本 I	
3	13:10 14:40	介護総合演習 I	社会の理解 I	認知症の理解 I	人間の理解 II	医療的ケア I	
4	14:50 16:20	介護過程 I		国家試験対策指導	ガイダンス・全学連携演習	医療的ケア I	

令和5年度 介護福祉科 時間割

2年 前期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	社会の理解Ⅲ	介護の基本Ⅱ	人間の理解Ⅲ	認知症の理解Ⅱ	生活支援技術Ⅳ	
2	10:50 12:10	社会の理解Ⅱ	介護の基本Ⅱ	介護総合演習Ⅱ	こころとからだのしくみⅢ	生活支援技術Ⅳ	
3	13:10 14:40	障害の理解Ⅰ	生活支援技術Ⅱ	医療的ケアⅡ	生活支援技術Ⅱ	国家試験対策指導	
4	14:50 16:20		介護過程Ⅱ	医療的ケアⅡ	ガイダンス・全学連携演習		

2年 後期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	社会の理解Ⅲ	障害の理解Ⅱ	社会の理解Ⅲ	介護の基本Ⅱ	生活支援技術Ⅳ	
2	10:50 12:10	生活支援技術Ⅱ	障害の理解Ⅱ	介護総合演習Ⅱ	介護の基本Ⅱ	生活支援技術Ⅳ	
3	13:10 14:40	生活支援技術Ⅱ	国家試験対策指導	介護過程Ⅲ	介護過程Ⅲ		
4	14:50 16:20		国家試験対策指導		ガイダンス・全学連携演習		

第 1 学 年

科目名	人間の理解Ⅰ (Comprehend of human Ⅰ)						
学年	1	時期	前期	分野	人間と社会	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	川野竜太郎(専任教員)
授業概要	<p>「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護現場における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。さらに、介護実践に必要となるチームマネジメントの考え方と取り組みを学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間としての尊厳の保持と、自立・自律した生活を支える必要性を説明できる。 2. 介護における尊厳の保持や自立支援がどのように展開されているのか、法律や制度と合わせて理解することができる。 3. 個々が持つ多様な人間観・自立観を受け止め、他者の価値観を尊重することができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	人間の尊厳と利用者主体					
	2	人権思想の潮流とその具現化／人権や尊厳に関する日本の諸規定					
	3	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①					
	4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②					
	5	人権尊重と権利擁護					
	6	自立のあり方①					
	7	自立のあり方②					
	8	人間の尊厳を考える(支援を必要とする立場と支援に携わる立場から)					
	9	介護実践におけるチームマネジメントの意義①					
	10	介護実践におけるチームマネジメントの意義②					
	11	ケアを展開するためのチームマネジメント					
	12	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①					
	13	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②					
	14	組織の目標達成のためのチームマネジメント					
15	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>・科目修得試験 80% ・出席及び受講状況 20%</p>						
テキスト 参考文献	<p>最新 介護福祉士養成講座 1「人間の理解」第2版 中央法規出版</p> <p>福祉小六法(中央法規出版)</p> <p>※その他随時資料配布</p>						
備考	<p>講義には主体的に参加すること。</p> <p>配布した資料をしっかりと整理・保管しておくこと。</p>						

科目名	人間の理解Ⅱ (Comprehend of human Ⅱ)						
学年	1	時期	後期	分野	人間と社会	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	宮下 清子 (専任教員)
授業概要	人が社会で生活する中でのコミュニケーションの意義を理解し、人間関係形成のあり方について、対人援助関係における基礎的なコミュニケーションのあり方の理解を深める。また、利用者一人ひとりの状況に合わせたコミュニケーションのあり方を考察し、介護の現場における専門職としての役割について理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対人援助関係のための人間関係形成の過程を説明できる。 2. 対人関係について介護場面における利用者一人ひとりの状況に合わせたコミュニケーションのあり方を考察し応用できる。 3. 利用者の方の生活に関わる専門職の役割について理解できる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 対人関係におけるコミュニケーション①					
	2	対人関係におけるコミュニケーション②					
	3	対人関係におけるコミュニケーション③					
	4	社会心理学からみた人間関係①					
	5	社会心理学からみた人間関係②					
	6	人間と人間の理解①					
	7	人間と人間の理解②					
	8	人間と人間の理解③					
	9	発達心理学からみた人間関係①					
	10	発達心理学からみた人間関係②					
	11	対人援助関係とコミュニケーション①					
	12	対人援助関係とコミュニケーション②					
	13	対人援助関係とコミュニケーション③					
	14	組織におけるコミュニケーション					
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 80% ・提出物・受講状況 20%						
テキスト	使用テキスト 最新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」(中央法規出版)						
参考文献	その他 講師作成資料をその都度配布する。						
備考	配布資料をしっかりと整理・保管すること。						

科目名	社会の理解 I (Comprehend of society I)						
学年	1年	時期	後期	分野	人間と社会	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	川野竜太郎(専任教員)
授業概要	<p>個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかわりや自助、互助、共助、公助の関係について理解する。</p> <p>地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する。</p> <p>新聞記事や視聴覚教材を利用し、身近な福祉問題を提起するなかで、自己学習や積極的な行動に移れるように意識づけを図っていく。</p>						
到達目標	<p>従来、個人や家族間で行われてきた「支援」を、現在は「社会」が中心になって行っている理由を自分なりに整理し、その理由を説明できる。</p> <p>生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが、日常生活の場で適切に提供できる体制づくりが行えるようになる。</p>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	福祉とは何か					
	2	社会福祉法制の構造					
	3	介護福祉士資格について					
	4	生活の基本機能					
	5	ライフスタイルの変化					
	6	家族の機能と役割					
	7	社会・組織の機能と役割					
	8	地域・地域社会					
	9	地域社会における生活支援					
	10	地域福祉の発展①					
	11	地域社会の発展②					
	12	地域共生社会					
	13	地域包括ケア①					
	14	地域包括ケア②					
15	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>・科目修得試験 80% ・出席及び受講状況 20%</p>						
テキスト	使用テキスト ①最新 介護福祉士養成講座2 「社会の理解」(中央法規出版)						
参考文献	<p>②福祉小六法(中央法規出版)</p> <p>その他 講師作成資料をその都度配布する。</p>						
備考	配布した資料をしっかりと整理・保管しておくこと。						

科目名	社会の理解Ⅱ (Comprehend of society Ⅱ)						
学年	1・2	時期	後期・前期	分野	人間と社会	必修選択	必修
単位数	4	時間数	60	授業形態	講義	担当講師	新名 隆宏 (専任教員)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の目的、意義を正しく理解する。 2. 社会保障の歴史をその時代背景、社会情勢等を含めて理解する 3. 「障害」の理念と「障害児者」の実態を学んでいく。 4. 障がい児者福祉の基本理念、目的について学んでいく。 5. 障がい児者福祉に関する法律とサービス体系・内容を学んでいく。 6. 障がい児者福祉に関連する職に従事した際に必要不可欠な知識を学んでいく。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種社会保障制度を分類、整理し、説明できる。 2. 各種社会保障制度に関する法律やサービス等を整理し、それぞれについて説明できる。 3. 将来福祉従事者としての実践へ活用できる。 4. 障がい児者福祉に関する多様な理念等を整理し、それぞれについて説明できる。 5. 障がい児者福祉に関する法律やサービスを整理し、それぞれについて説明できる。 6. 障がい児者を取り巻く問題について整理し、主たる要因を分析し説明できる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 社会保障の基本的な考え方					
	2	社会保障の意義と役割・目的と機能					
	3	日本の社会保障を取り巻く数字及びキーワード					
	4	日本の社会保障制度の歴史① 日本国憲法と社会保障 社会保障制度の基盤整備					
	5	日本の社会保障制度の歴史② 国民皆保険・皆年金の確立 社会保障改革					
	6	日本の社会保障制度のしくみ及び実施体制					
	7	社会保険制度① 年金制度の概要					
	8	社会保険制度② 年金制度の負担と給付要件					
	9	社会保険制度③ 医療保険制度の概要					
	10	社会保険制度④ 医療保険の負担と保険給付					
	11	社会保険制度⑤ 労働保険制度の概要					
	12	虐待防止に関する制度 個人の権利を守る制度 (成年後見制度等)					
	13	保健医療に関する制度					
	14	生活保護制度 地域生活を支援する制度					
	15	科目修得試験					
	16	障害の概念について					
	17	障害者の法的定義について					
18	障がい者福祉に関する様々な理念について① ノーマライゼーション						

	19	障がい者福祉に関する様々な理念について② 自立に関する考え方
	20	障害者福祉関連施策について ・保健・医療・年金・手当
	21	障害者福祉関連施策について ・教育・雇用・就労
	22	障害者福祉関連施策について ・住宅・生活環境
	23	社会福祉基礎構造改革と障害者施策
	24	障害者総合支援制度のしくみと基礎的理解① ・自立支援給付と利用者負担・事業者及び施設・専門職の役割
	25	障害者総合支援制度のしくみと基礎的理解② ・サービス利用の流れ・サービスの種類と内容
	26	障害者総合支援制度のしくみと基礎的理解③ ・サービスの種類と内容
	27	障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割① ・国、都道府県、市町村の役割
	28	障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割② ・指定サービス事業所の役割・障害者支援施設の役割
	29	今後の障害者福祉施策と障害者総合支援制度
	30	科目修得試験
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 80% ・出席及び受講状況（演習含む） 20%	
テキスト 参考文献	使用テキスト ①最新 介護福祉士養成講座2 「社会の理解」第2版（中央法規出版） ②福祉小六法（中央法規出版） その他 講師作成資料をその都度配布する。	
備考	・社会を理解していくために、日々のニュースや新聞記事等を注意深く見ておくこと。 ・講義中に配布する資料をしっかりと保管、管理しておくこと。	

科目名	介護の基本 I (Basics of caregiving I)						
学年	1	時期	前後期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	6	時間数	90	授業形態	講義	担当講師	千代森 倍世 (専任教員)
授業概要	<p>介護を必要とする人の生活を支援する専門職として、基本となる考え方を学ぶ授業である。</p> <p>「介護」とは何か、介護福祉士の役割は何かを理解する。また、「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の視点からとらえることを理解する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の意義と役割及び専門性について理解することができる。 2. 介護を必要とする人を「生活する人」として受けとめ、一人ひとりの利用者の思いや生き方、生活習慣などその人らしさ（個別性）を大切にすることを学ぶ。 3. 尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深めることができる。 4. 介護福祉士を取り巻く状況や背景を、我が国の介護の歴史を通して理解し、現在の介護福祉士の担う社会的役割を認識できる。 5. 介護を必要とする人の個別性や多様性などが理解でき、自立に向けた介護を実践するために、自立の意味や自己決定、ICFの考え方、介護予防などについての理解を深めることができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション					
	2	介護の成り立ち					
	3	介護福祉を取り巻く状況①					
	4	介護福祉を取り巻く状況②					
	5	介護の福祉の歴史（1970～1990年代）					
	6	介護の福祉の歴史（2000年以降）					
	7	介護福祉の基本理念①					
	8	介護福祉の基本理念②					
	9	介護福祉の基本理念③					
	10	介護福祉の基本理念④					
	11	社会福祉士及び介護福祉士法①					
	12	社会福祉士及び介護福祉士法②					
	13	介護福祉士の活動の場と役割①					
	14	介護福祉士の活動の場と役割②					
	15	介護福祉士に求められる役割と養成					
	16	介護福祉士を支える団体					
	17	介護実践における倫理①					
	18	介護実践における倫理②					
19	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応①						

	20	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応②
	21	介護実践の振り返り①
	22	介護実践の振り返り②
	23	科目修得試験
	24	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応③
	25	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応④
	26	日本介護福祉士会の倫理綱領①
	27	日本介護福祉士会の倫理綱領②
	28	介護福祉士に求められる専門職としての態度①
	29	介護福祉士に求められる専門職としての態度②
	30	介護福祉士に求められる専門職としての態度③
	31	介護福祉における自立支援①
	32	介護福祉における自立支援②
	33	介護における ICF のとらえ方①
	34	介護における ICF のとらえ方②
	35	高齢者のストレングス①
	36	高齢者のストレングス②
	37	自立支援とリハビリテーション①
	38	自立支援とリハビリテーション②
	39	自立支援と介護予防①
	40	自立支援と介護予防②
	41	介護予防の概要と実際
	42	自立支援と介護予防
	43	介護予防における介護福祉士の役割
	44	まとめ
	45	科目修得試験
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 科目修得試験 80% レポート内容・提出状況 20%	
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」第2版（中央法規出版） 最新 介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」第2版（中央法規出版） 参考文献 授業内で随時紹介する その他 授業の中で視聴覚教材を随時使用	
備考	グループワークは積極的に参加し、レポート課題の提出期日を必ず守る。	

科目名	コミュニケーション技術 I (Communication technology I)						
学年	1	時期	前期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	下徳 雅人 (専任教員)
授業概要	介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を学ぶ。また、コミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を学び、適切なコミュニケーションの実践が可能となることを理解する。さらに、介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術、個人情報扱い方や情報の共有、管理の仕方を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の視点から人間関係を成立させるためには信頼関係が重要であることを理解できる。 2. 介護現場で協働する関係者と情報を共有するため、記録や報告書を作成する意味を理解し、実践に活かすことができる。 3. チーム力を高めるコミュニケーションの方法を学び、実践につなげることができる。 4. 生活に彩りを与え、相互理解のツールともなる余暇支援の視点を持つことができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	介護におけるコミュニケーション／介護におけるコミュニケーションの対象					
	2	援助関係とコミュニケーション					
	3	コミュニケーション態度に関する基本技術					
	4	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本					
	5	目的別のコミュニケーション技術					
	6	集団におけるコミュニケーション技術					
	7	コミュニケーション障害への対応の基本					
	8	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援					
	9	家族との関係づくり／家族への助言・指導・調整					
	10	家族関係と介護ストレスへの対応					
	11	チームのコミュニケーション					
	12	報告・連絡・相談の技術					
	13	記録の技術／情報の活用と管理のための技術					
	14	様々な手法を用いたコミュニケーション (コラージュ制作)					
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 70% ・演習、レポート課題 25% ・受講状況 5%						
テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」第2版 中央法規出版 ※その他随時提示						
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義やグループワークに主体的に参加し、自分の意見を述べること。 2. 他者の意見にも耳を傾け、互いに学び合う姿勢を持つこと。 3. 提出物は期日を厳守すること。 						

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ (Communication technology Ⅱ)						
学年	1	時期	後期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	演習	担当講師	田中 陽子 (非常勤講師)
授業概要	1. 介護場面において、利用者・家族に対して適切な支援を行うためには、利用者の状態を理解し、それに応じたコミュニケーションが必要となる。感覚機能が低下している人（主に聴覚障害者）との具体的なコミュニケーション技法の実際について学び、習得する。						
到達目標	1. 感覚機能（聴覚器）が低下することでおこる障害や生活上の困難さ等を正しく理解し、手話の演習を通して「観る力」「表現する力」を養い、コミュニケーション能力を高めていく。また、様々な手段を工夫して伝え合い、会話ができるという姿勢を身につける。 2. 感覚機能が低下している利用者（主に聴覚障害者）の状態について理解し、それに応じたコミュニケーション技法について学び、習得する。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本 感覚機能（聴覚器）が低下している人とのコミュニケーション ○聴覚障害者の基礎知識 ○コミュニケーション方法の留意点					
	2	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本 ○物の形や動作の模倣 ○身振り表現での伝達 ○「自己紹介①」 ・挨拶 ・名前の表現					
	3	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技法の実際 ○「自己紹介②」 ・数字 ・年齢 ・誕生日の表現					
	4	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技法の実際 ○「自己紹介③」 ・家族紹介の表現					
	5	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技法の実際 ○「自己紹介④」 ・趣味に関わる表現					
	6	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技法の実際 ○自己紹介のまとめ					
	7	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技法の実際 ○その他 ・介護場面の手話表現 ○総合練習					
	8	科目修得試験					
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験（筆記及び実技試験）90% 出席状況及び受講態度 10%						
テキスト	使用テキスト 新手話教室 厚生労働省手話奉仕員養成講座（入門課程対応） 全国手話研修センター発行						
参考文献	参考文献 ①私たちの手話（1）～（10） 全日本ろうあ連盟発行 ②日本語・手話辞典 全日本ろうあ連盟発行 ③聴覚障害児。者支援の基本と実践 中央法規出版						
備考	その他 講師作成資料配布						
備考	1. 手話の習得は繰り返し練習することが基本となるため、毎回次の授業までに復習をしておくこと。 2. 手話は手の動きだけでなく、表情や体の向きなども含めた「言語」であることを常に意識して授業に臨んでほしい。						

科目名	コミュニケーション技術Ⅲ (Communication technology Ⅲ)						
学年	1	時期	前期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	演習	担当講師	押川 恵子 (非常勤講師)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 点字が使われている範囲が広がっている状況を理解するとともに、視覚障害者が情報収集の手段として用いる文字であることを知る。 2. 視覚障害者にとっては、コミュニケーションの手段の一つとして点字が大きな役割を担っていることを知る。 3. 点字を学ぶことをとおして、視覚障害者への理解を深めるとともに、視覚障害者と自然にふれあい意志の伝達が確実にできるようになる。 4. 視覚障害者の文字生活を正しく理解し、点字の働きをしっかりと把握する。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「点字一覧表」を使用して、点字のかな（五十音）・数字・アルファベット（二十六文字）を書くことができる。 2. 「点字一覧表」を使用して、点字で書かれたかな・数字・アルファベットを読むことができる。 3. 視覚障害者の情報収集の手助けができるようになる。 4. 日常生活のなかで、視覚障害者が必要としている援助の内容を知り、手助けする仕方を身につける。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 視覚障害者をどう理解するか考えてみよう ○視覚障害者の現状を知る ○視覚障害者のコミュニケーション手段について ・説明 ・各自書出 ・協議					
	2	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 視覚障害者の文字としての点字を知る ○点字を使う視覚障害者の生活 ○点字の構成を知る ○点字の清音・濁音・拗音を書いてみる ・点字器と点筆を使って各自で点字用紙に書く					
	3	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 簡単な点字の語句を書いてみよう ○基本的な仮名遣いを理解する ○日常的な単語を書く ○自分で書いた点字を読んでみる ・点字用紙に書き込む					
	4	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 点字で表す数字やアルファベットを調べてみよう ○電話番号や住所の表記をする ○アルファベットによる略語や英語の文章の書き方を理解し、実際に書いてみる ・点字用紙に書き込む					
	5	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 短い文章を書いてみよう ○氏名や生年月日を書く ○記号類を使う ・点字用紙を使用して文章を書く					

授業計画	6	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 点字で自己紹介文を書いてみよう ○あらかじめ準備してきた自己紹介の文を書く ○家族、趣味などを加える ・点字用紙を使用 ・隣接者と相互に読み合う
	7	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション いろいろな案内文や手紙を書いてみよう ○宛先、差出人、日付などの書き方 ○「点字用郵便」について理解する ・例文を転写する
	8	科目修得試験 ○点字が使われている場所や場面が理解できたか ○点字の読み書きの基本が習得できたか ・ペーパーテスト ・点字による課題文の読み書き
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める ・科目修得試験（筆記試験および実技試験）80% ・演習問題の提出 20%	
テキスト 参考文献	使用テキスト ・「初めての点訳」（第3版） =全国視覚障害者情報提供施設協会 参考文献等 ・「点訳のてびき」（第4版） =全国視覚障害者情報提供施設協会 ・「点字表記辞典」（改訂新版） =視覚障害者支援センター	
備考	1. 演習に必要な点字器・点筆は毎時間忘れずに持参すること。 2. 演習時間に課せられた点字の読み書き問題はその時間に完成させて提出すること。 3. 演習時間以外に自分で計画的に点字の読み書きの練習をすること。	

科目名	生活支援技術 I (Life support technology I)						
学年	1	時期	前期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	千代森 倍世 (専任教員)
授業概要	1. 生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営、生活史等、生活にかかわる基本知識を学び生活を理解する。 2. 生活支援の考え方を理解する。						
到達目標	1. 生活について基本知識を説明できる。 2. 生活支援と介護予防、他職種との協働を列記できる。 3. ICFの視点にもとづく生活支援について理解できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 生活支援の理解の概要					
	2	生活支援とは何か					
	3	ライフサイクルと生活の豊かさ					
	4	生活支援のポイント①					
	5	生活支援のポイント②					
	6	ICF の視点にもとづく生活支援①					
	7	ICF の視点にもとづく生活支援②					
	8	本人 (利用者) を理解するための ICF の視点①					
	9	本人 (利用者) を理解するための ICF の視点②					
	10	生活支援とは①					
	11	生活支援とは②					
	12	生活支援におけるチームアプローチの重要性					
	13	ライフステージとチームアプローチのあり方					
	14	まとめ					
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 80% レポート課題 20%						
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座6「生活支援技術 I」第2版 (中央法規出版) その他 講師作成資料をその都度配布						
備考	・配布物の整理を行うこと						

科目名	生活支援技術Ⅲ (Life support technology Ⅲ)						
学年	1	時期	通年	分野	介護	必修選択	必修
単位数	3	時間数	90	授業形態	演習	担当講師	下徳 雅人 (専任教員)
授業概要	<p>介護を必要とする人がどのような状態であっても、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活への課題解決に向けた方法を理解する。できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活状況を的確に把握し、自立支援のための介護を他職種と連携し、計画的に提供することを理解する。利用者の QOL が向上するために、個別性のある自立・自律や社会参加にむけた生活支援技術について学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、睡眠の基本的な生活様式を学び、それらに不自由を感じる利用者の介護などについて、あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 利用者の生活活動を残存能力・潜在能力の視点で把握し、各々の生活場面における生活支援技術を理解し、自立支援に向けた方法を習得する。 生活支援をおこなっていく中で、感染予防、腰痛予防、ボディメカニクスなど、セーフティマネジメントを実施できる。 家族への配慮と終末期の介護について学ぶ。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 授業の概要					
	2	ボディメカニクス 自立した移動とは					
	3	自立に向けた移動・移乗の介護					
	4	移動の介護における多職種との連携					
	5	休息・睡眠とは					
	6	休息・睡眠の介護					
	7	休息・睡眠の介護					
	8	休息・睡眠の介護における多職種との連携					
	9	自立に向けた身じたくの介護					
	10	身じたくの介護における多職種との連携					
	11	身じたくの介護 (衣服の着脱) ①					
	12	身じたくの介護 (衣服の着脱) ②					
	13	身じたくの介護 (衣服の着脱) ③					
14	食事の意義と目的						
15	自立に向けた食事の介護						
16	食事の介護における多職種との連携						
17	入浴・清潔の意義と目的						
18	自立に向けた入浴・清潔の介護 (清拭・部分浴)						
19	自立した排泄とは						
20	自立に向けた排泄の介護①						

	2 1 2 2	前期の振り返り
	2 3	科目修得試験
	2 4 2 5	入浴・清潔の意義と目的 自立に向けた入浴・清潔の介護（清拭・部分浴）
	2 6 2 7	自立に向けた入浴・清潔の介護（洗髪）① 自立に向けた入浴・清潔の介護（洗髪）②
	2 8 2 9	自立に向けた入浴・清潔の介護（特殊浴槽） 入浴・清潔保持の介護における多職種との連携
	3 0 3 1	自立に向けた排泄の介護② 排泄の介護における多職種との連携
	3 2 3 3	自立に向けた移動・移乗の介護① 自立に向けた移動・移乗の介護②
	3 4 3 5	自立に向けた移動・移乗の介護③ 自立に向けた移動・移乗の介護④
	3 6 3 7	介護者への指導① 介護者への指導②
	3 8 3 9	介護者への指導③ 介護者への指導④
	4 0 4 1	実技試験に向けて① 国家試験問題の振り返り②
	4 2 4 3	実技試験に向けて① 国家試験問題の振り返り②
	4 4	実技試験
	4 5	科目修得試験
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 70% 実技試験 20% レポート内容・提出状況 10%	
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」第2版（中央法規出版） 最新 介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」第2版（中央法規出版） 参考文献 授業内で随時紹介する その他 授業の中で視聴覚教材を随時使用し適宜プリント配布	
備考	1. 準備や片付けも大切な演習の一環であることを意識し率先して行動する。 2. 疑問や問題意識を持ちながら、積極的に演習に取り組み協調性を心がける。 3. 演習時は身だしなみに留意する。	

科目名	介護過程 I (Nursing care process I)						
学年	1	時期	通年	分野	介護	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	田中 龍子 (専任教員)
授業概要	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開する力を養う。事例および介護実習で担当したケースをもとに、利用者個々の課題を明確化し介護計画を立案する。利用者を全人的に理解し、適切な介護サービスの提供ができる能力を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他の科目で学習した知識や技術を、介護過程の展開に活かすことができる。 2. 介護には科学的根拠があることを理解し、問題解決思考を可視化して説明することができる。 3. 利用者のニーズに即した介護計画を立案することができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	介護過程とは (オリエンテーション)					
	2	介護過程の意義・目的					
	3	介護過程とケアマネジメント					
	4	生活支援における介護過程の必要性					
	5						
	6	アセスメント (情報収集) (全体像の理解)					
	7						
	8						
	9	ペーパーシミュレーション					
	10						
	11						
	12	アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化) (生活課題の明確化)					
	13						
	14						
	15	科目修得試験					
	16	ペーパーシミュレーション					
	17						
	18						
	19	計画の立案					
	20						
	21	ペーパーシミュレーション					
	22						
	23						
	24	実施					
	25	評価					
26	介護実習ⅡAに向けて						

	27	受け持ち利用者の介護過程整理
	28	事例研究発表聴講
	29	
	30	科目修得試験
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 60% ・演習、レポート課題 30% ・受講状況 10%	
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座9「介護過程」（中央法規） その他随時提示する。	
備考	1. 講義やグループワークに主体的に参加し、自分の意見を述べること。 2. 他者の意見にも耳を傾け、互いに学び合う姿勢を持つこと。 3. 提出物は期日を厳守すること。	

科目名	介護総合演習 I (Case study of social care I)						
学年	1	時期	通年	分野	介護	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	下徳 雅人 (専任教員)
授業概要	講義や演習で学んだことを、実習先で利用者の生活支援に活かすための知識や技術の統合力を養う。さらに、介護実習と連動した事前オリエンテーションや帰校日指導、実習後の報告会を通して、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に臨む心構えや、介護福祉職としての専門性や倫理観を考えることができる。 2. 介護施設や事業所の概要と利用者の暮らしの場を理解し、介護福祉士としての役割を知ることができる。 3. これまでに学んだ基本的知識、技術をもとに、介護を実践するための柔軟性や応用力、判断力を養うことができる。 4. 介護実習を通して自己を振り返り、今後の目標や課題を言語化することができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション (実習要項配付)					
	2	介護福祉士養成校における介護実習の位置づけについて					
	3	介護実習 I について (意義・目的の理解/個人票等記載)					
	4						
	5	介護実習 I について (実習目標立案)					
	6	実習記録について					
	7	事前オリエンテーションについて (意義・目的の理解/心構えの確認)					
	8	事前オリエンテーション参加					
	9	事前オリエンテーションのまとめ					
	10	介護実習 I 中間報告					
	11	介護実習報告会 (2年生) 聴講					
	11	介護実習 I 報告会について (記録物等整理/各自振り返り/資料作成)					
	12						
	13						
	14	介護実習 I 実習報告会					
	15	科目修得試験					
	16	介護実習 II について (意義・目的の理解/個人票等記載/実習目標立案)					
	17						
	18						
	19						
20							
21	事前オリエンテーション参加						

	22	事前オリエンテーションのまとめ
	23	介護実習ⅡA 帰校日（記録物等整理／疾患学習／意見交換）
	24	
	25	
	26	介護実習ⅡA 報告会について（記録物等整理／各自振り返り／資料作成）
	27	
	28	
	29	
	30	介護実習ⅡA 実習報告会
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 50% ・演習、レポート課題、受講状況 50%	
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座10「介護総合演習」第2版（中央法規） 参考文献 介護実習要項	
備考	1. 講義やグループワークに主体的に参加し、自分の意見を述べること。 2. 他者の意見にも耳を傾け、互いに学び合う姿勢を持つこと。 3. 提出物は期日を厳守すること。	

科目名	介護実習 I (Care practice I)						
学年	1	時期	前期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	2	時間数	90	授業形態	実習	担当講師	千代森倍世・下徳雅人 田中龍子（専任教員）
授業概要	利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の理解に努め、施設職員の役割について理解を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の機能と役割を理解することができる。 2. 介護職員の役割を学ぶことができる。 3. 利用者に応じたコミュニケーションを図ることができ、利用者理解を深めることができる。 4. 基本的な日常生活援助方法について理解することができる。 5. 介護活動の場において基本的な態度を身につけることができる。 						
授業計画	日数	授 業 内 容					
	10 日 間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の概要を理解する 2. 実習の意義、目標について考え実習への意欲を高める 3. 介護福祉士としての職業倫理、社会的役割、チームワークの必要性について学ぶ 					
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 実習指導者の評価及び実習巡回教員よりの評価						
テキスト 参考文献	参考文献 介護実習要項（宮崎医療管理専門学校 介護福祉科） 最新 介護福祉士養成講座シリーズ第2版（中央法規出版）						
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の目的および目標を理解したうえで、実習前に立案した各自の実習目標を達成できるようにする。 2. 介護福祉士として、本校学生としての自覚を持って実習に臨むこと。 						

科目名	介護実習ⅡA (Care practice ⅡA)						
学年	1	時期	前期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	4	時間数	180	授業形態	実習	担当講師	千代森倍世・下徳雅人 田中龍子（専任教員）
授業概要	1. 利用者の全人間的な理解を求め、ニーズを理解した介護計画を立案することができる。 2. 自立支援の視点や個別援助の必要性について理解する。						
到達目標	1. 利用者の個別に応じた日常生活の援助ができる。 2. 受け持ち利用者との親愛関係を築き、利用者理解を深めることができる。 3. 受け持ち利用者の生活機能を把握し、全体像を把握することができる。 4. 受け持ち利用者のニーズを明確にし、介護計画を立案することができる。 5. レクリエーションに参加し、利用者に応じたレクリエーション活動を理解することができる。 6. 他職種の仕事の必要性を理解し、医療・福祉の連携方法について学ぶことができる。						
授業計画	日数	授 業 内 容					
	20日	1. 施設の概要を理解する 2. 実習の意義、目標について考え実習への意欲を高める 3. 個別介護計画の必要性を学び、介護計画を立てる 4. 利用者の日常生活援助の支援方法を学ぶ 5. 施設における安全対策について学ぶ 6. 介護福祉士としての職業倫理、社会的役割、チームワークの必要性について学ぶ					
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 実習指導者の評価及び実習巡回教員よりの評価						
テキスト 参考文献	参考文献 介護実習要項（宮崎医療管理専門学校 介護福祉科） 最新 介護福祉士養成講座シリーズ第2版（中央法規出版）						
備考	1. 実習の目的および目標を理解したうえで、実習前に立案した各自の実習目標を達成できるようにする。 2. 介護福祉士として、本校学生としての自覚を持って実習に臨むこと。						

科目名	発達と老化の理解 I (Comprehend of development&aging I)						
学年	1	時期	前期	分野	こころとからだのしくみ	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	鬼束 咲子 (非常勤講師)
授業概要	1. 人間の発達について理解を深める。 2. 老年期の発達課題を理解し、高齢者の心理事象を理解する。 3. 老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響を知り、生活援助技術を見につけるための基礎知識を習得する。						
到達目標	2. 老年期の発達課題について説明できる。 3. 高齢者の心理特徴を踏まえた適切な対応や援助方法を身につける。 3. カウンセリング等の心理的援助技術についての知識を身につける。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 人間の成長と発達の基礎的知識		成長・発達の考え方	成長・発達の原則・法則		
	2	人間の成長と発達の基礎的知識		成長・発達に影響する要因			
	3	人間の発達段階と発達課題		発達理論			
	4	人間の発達段階と発達課題		発達段階と発達課題			
	5	人間の発達段階と発達課題		身体的機能の成長と発達			
	6	人間の発達段階と発達課題		心理的機能の発達			
	7	人間の発達段階と発達課題		社会的機能の発達			
	8	老年期の特徴と発達課題		老年期の定義	老化とは		
	9	老年期の特徴と発達課題		老年期の発達課題			
	10	老年期の特徴と発達課題		老年期の発達課題			
	11	老年期の特徴と発達課題		老年期をめぐる今日的課題			
	12	老化にともなうこころとからだの変化と生活		老化にともなう心理的な変化と生活への影響			
	13	老化にともなうこころとからだの変化と生活		老化にともなう社会的な変化と生活への影響			
	14	対人援助職のこころの健康		まとめ			
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 科目修得試験 70% レポート課題提出状況 30%						
テキスト 参考文献	使用テキスト 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」(中央法規出版) 参考文献等 その他授業中に紹介する。						
備考	1. 授業の中で、興味・関心を持ったことについては、自己の学習過程においても追求していくこと。 2. テキストだけでなく、新聞など様々なメディアを通して、高齢者がおかれている現状や問題点などに、興味関心をもつようにすること。						

科目名	発達と老化の理解Ⅱ (Comprehend of development&agingⅡ)						
学年	1	時期	後期	分野	こころとからだのしくみ	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	田中 龍子 (専任教員)
授業概要	1. 高齢者の身体面と精神面の関連、変化について習得する。 2. 加齢に伴う障害や疾病について理解し、介護実践に役立てる。 3. 多職種連携の必要性について理解し、実際の生活における支援内容を理解する。						
到達目標	1. 高齢者に多い疾患とその症状について理解できる。 2. 疾患の知識を学ぶことで、利用者の生活支援の方法や対応を学ぶ。 3. 医療職との連携の必要性について理解し、介護職における役割について関連づけることができる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	加齢による生理機能の全体的低下について理解する。					
	2	高齢者の症状や疾患の特徴について理解する。 ①骨格系・筋系					
	3	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療を学ぶ ①骨格系・筋系					
	4	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療を学ぶ ①骨格系・筋系 ②脳神経系					
	5	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療を学ぶ ①脳神経系 ②感覚器系					
	6	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療について理解する ○グループワーク					
	7	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療を学ぶ ①感覚器系					
	8	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療を学ぶ ①感覚器系 ②循環器系					
	9	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療を学ぶ ①循環器系					
	10	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療を学ぶ ①循環器系 ②消化器系					
	11	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療を学ぶ ①消化器系					
	12	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療を学ぶ ①腎・泌尿器系					
	13	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療について理解する ○発表 ●説明					
	14	高齢者に多い疾患の種類と原因や症状、治療について理解する ○発表 ●説明					
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 75%、演習課題 (グループワーク) 20%、受講状況 5%						
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」第2版(中央法規出版) その他 スライド使用、随時資料配布						
備考	1. 専門的知識を学ぶ上で、講義を聴く姿勢を大事にすること。 2. グループワーク学習においては、各個人取り組みをしっかりと行いグループ間の連携を重視すること。						

科目名	認知症の理解 I (Comprehend of dementia I)						
学年	1	時期	後期	分野	こころとからだのしくみ	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	下徳 雅人 (専任教員)
授業概要	認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症のある人の現状を理解する。その上で、認知症の原因となる主な病気や症状の特徴を学び、日常生活への影響として見られる中核症状、行動・心理症状 (BPSD) を理解する。また、認知症のある人が尊厳を保持し人生を継続していくための介護のあり方を模索する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の病気やその特徴、中核症状、行動・心理症状 (BPSD) を理解することができる。 2. 認知症のある人の行動には理由があるということを理解することができる。 3. 認知症によって心身機能が変化することで、人間関係や生活環境、社会との関係に支障が生じる場合があることを学び、その支援のあり方を考えることができる。 4. 認知症のある人の尊厳や権利を擁護するための具体的な支援について学ぶことができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 認知症とは何か					
	2	認知症ケアの歴史					
	3	認知症ケアの歴史					
	4	認知症の定義、原因					
	5	アルツハイマー型認知症					
	6	血管性認知症					
	7	レビー小体型認知症					
	8	前頭側頭型認知症					
	9	その他の認知症、治療可能な認知症、認知症と間違えられやすい症状					
	10	認知症とは区別される記憶障害					
	11	若年性認知症					
	12	認知症の人の行動・心理症状 (BPSD)					
	13	認知症の診断、治療					
	14	認知症の人の心理的理解					
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 80% ・レポート課題 15% ・受講状況 5%						
テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」 第2版 中央法規 ※その他随時提示						
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義やグループワークに主体的に参加し、自分の意見を述べること。 2. 他者の意見にも耳を傾け、互いに学び合う姿勢を持つこと。 3. 提出物は期日を厳守すること。 						

科目名	こころとからだのしくみ I (Mechanism mind and body work I)						
学年	1	時期	前期	分野	こころとからだのしくみ	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	田中 龍子 (専任教員)
授業概要	1. 人間の心理や人体の構造・機能を理解するための基礎的知識を学ぶ。 2. 人が生活するうえでこころとからだはどのように働くのかを理解する。						
到達目標	1. 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を習得する。 2. 疾病の発生メカニズムについて学ぶことにより、「予防の視点」を身につけることができる。 3. 介護福祉士として利用者にかかわる際に、健康を意識した支援を実践できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション：シラバス、健康について各自考える。					
	2	こころのしくみを理解する：マズローについて からだのしくみを理解する：からだの部位の役割・身体各部の名称					
	3	脳・神経系について (1) 中枢神経系					
	4	脳・神経系について (2) 末梢神経系					
	5	感覚器系・内臓の名称について					
	6	循環器系について (1) 心臓					
	7	循環器系について (2) 血管系 (3) リンパ系					
	8	消化器系について (1) 消化管 (2) 消化腺					
	9	泌尿器系・骨、筋肉系について					
	10	骨、関節、筋肉の働き 神経系のはたらき					
	11	生殖器・内分泌の働き					
	12	内分泌、血液の働き					
	13	体液、自律神経系、生命の維持と恒常性のしくみについて					
	14	バイタルサイン 介護福祉職に必要な薬の知識について					
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験65%、レポート課題30%、受講状況5%						
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」第2版 (中央法規出版) その他 スライド使用、随時資料配布						
備考	・目的意識をもって主体的に積極的に、講義に参加すること。						

科目名	こころとからだのしくみⅡ (Mechanism mind and body workⅡ)						
学年	1年	時期	通年	分野	こころとからだのしくみ	必修選択	必修
単位数	4	時間数	60	授業形態	講義	担当講師	田中 龍子 (専任教員)
授業概要	<p>介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能および介護サービスの提供における安全への留意点などについて学習する。</p> <p>こころとからだのしくみⅡにおいては、生活場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を学習する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活場面ごとに（移動、身じたく、食事、入浴、）こころとからだのしくみ、心身機能低下や障害が生活に及ぼす影響を理解する。 2. 変化に対する観察のポイントを学ぶ。 3. 医療職との連携のポイントを学ぶ。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション こころとからだのしくみを学ぶにあたって					
	2	移動に関連したこころとからだのしくみ① ・なぜ移動をするのか					
	3	移動に関連したこころとからだのしくみ② ・基本的な姿勢					
	4	移動に関連したこころとからだのしくみ③ ・ボディメカニクス					
	5	移動に関連したこころとからだのしくみ④ ・移動に関連したこころとからだのしくみ①					
	6	移動に関連したこころとからだのしくみ⑤ ・精神機能低下が移動に及ぼす影響 ・身体機能低下が及ぼす影響					
	7	移動に関連したこころとからだのしくみ⑥ ・変化の気づきと対応					
	8	身じたくに関連したこころとからだのしくみ① ・なぜ、身じたくを整えるのか①					
	9	身じたくに関連したこころとからだのしくみ② ・なぜ、身じたくを整えるのか②					
	10	身じたくに関連したこころとからだのしくみ③ ・身じたくに関連したこころとからだのしくみ①					
	11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ④ ・精神機能低下が移動に及ぼす影響 ・身体機能低下が及ぼす影響					
	12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑤ ・変化の気づきと対応①					
	13	身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑥ ・変化の気づきと対応②					
	14	ふりかえり					
	15	科目修得試験					
16	食事に関連したこころとからだのしくみ① ・なぜ食事をするのか						

授業計画	17	食事に関連したところとからだのしくみ② ・食事に関連したところとからだのしくみ①
	18	食事に関連したところとからだのしくみ③ ・食事に関連したところとからだのしくみ②
	19	食事に関連したところとからだのしくみ④ ・摂食嚥下の5分類と内容
	20	食事に関連したところとからだのしくみ⑤ ・精神機能低下が移動に及ぼす影響 ・身体機能低下が及ぼす影響
	21	食事に関連したところとからだのしくみ④ ・食事での観察のポイント ・食事での医療職との連携のポイント
	22	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ① ・なぜ入浴・清潔保持を行うのか
	23	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ② ・入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ①
	24	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ③ ・入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ②
	25	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ④ ・入浴の効果(演習)・陰部・肛門の清潔
	26	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ④ ・精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ・身体機能が入浴・清潔保持に及ぼす影響
	27	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ④ ・皮膚の変化に合わせた入浴・清拭時の注意点・入浴が身体に及ぼす負担 ・入浴・清潔保持での観察のポイント
	28	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ④ ・入浴・清潔保持での医療職との連携のポイント ・清潔保持の際の注意点と対応
	29	ふりかえり
	30	科目修得試験
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 65% ・レポート課題 30% ・受講状況 5%	
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新介護福祉士養成講座11「ところとからだのしくみ」第2版 (中央法規出版) 参考文献 イラストで学ぶ解剖学 松村譲児 2000年 医学書院 よくわかる解剖整理 竹内 修二 1995年 医学芸術社	
備考		

科目名	医療的ケア I (Medical care I)						
学年	1	時期	後期	分野	医療的ケア	必修選択	必修
単位数	5	時間数	75	授業形態	講義	担当講師	椎屋良子・田中龍子 (専任教員)
授業概要	1. 医療提供上の危機管理を踏まえながら、安全に実施できる知識と実践力を学ぶ 2. 医療の倫理を遵守しチームの一員であることを自覚することができる態度を養うことを理解する。						
到達目標	4. 利用者や家族の気持ちを理解する考え方を学び、人の命を守る大切さを理解する。 5. 医療職と介護職との連携についての学びを深めるとともにチームの一員である自覚を学ぶ。 6. 感染予防について理解し、急変時の対応について実践できる。 7. 行為に対する説明ができ安全・迅速に実施できる方法、知識について理解できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション シラバスに沿い概要・内容について説明 ①医療的ケアとは ②医行為について					
	2	③チーム医療について ④個人情報の保護 ⑤利用者・家族に対する説明と同意					
	3	⑥改正法による喀痰吸引制度の概要					
	4	⑦健康状態の把握 バイタルサインについて					
	5	1. 安全な療養生活①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施					
	6	I. 安全な療養生活②救急蘇生					
	7	II. 清潔保持と感染予防①感染予防 感染とは					
	8	II. 清潔保持と感染予防②介護福祉職の感染予防 介護福祉職の健康管理					
	9	1. 呼吸のしくみと働き 換気とガス交換					
	10	2. いつもと違う呼吸状態 3. 喀痰吸引について					
	11	II. 清潔保持と感染予防③滅菌と消毒 演習					
	12	III. 経管栄養基礎的知識①消化器系のしくみとはたらき					
	13	3. 喀痰吸引について					
	14	4. 人工呼吸器について					
	15	III. 経管栄養基礎的知識②注入する栄養剤の知識					
	16	III. 経管栄養基礎的知識③こどもの経管栄養について					
	17	III. 経管栄養基礎的知識④経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認					
	18	III. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順①経管栄養で用いる器具・器材					
	19	4. 気管カニューレ内部の吸引					
	20	5. 子どもの吸引 6. 喀痰吸引を受ける利用者・家族の気持ち (グループワーク)					
	21	III. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順②経管栄養の技術と留意点					
	22	III. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順③経管栄養の技術と留意点 演習					
	23	6. 喀痰吸引を受ける利用者・家族の気持ち (説明)					
	24	7. 喀痰吸引で用いる器材について					
	25	III. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順④経管栄養に必要なケア					
	26	III. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順⑤経管栄養実施の観察ポイント					
	27	8. 喀痰吸引実施時の留意点について					
	28	9. 喀痰吸引に伴うケアについて					
	29	III. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順⑥経管栄養時経管栄養の実施					
	30	III. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順⑦経管栄養時に起こるトラブル					

	31	10. ビデオ視聴 〈 喀痰吸引を余儀なくされる人への理解 〉
	32	10. ビデオ視聴 〈 喀痰吸引を余儀なくされる人への理解 〉
	33	経管栄養 デモスト後、各グループでの演習
	34	経管栄養 デモスト後、各グループでの演習
	35	喀痰吸引 デモスト後、各グループでの演習
	36	喀痰吸引 デモスト後、各グループでの演習
	37	国家試験対策指導
	38	科目修得試験
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>・科目修得試験（喀痰吸引・経管栄養共に60点以上とれた場合）</p>	
テキスト 参考文献	<p>使用テキスト 最新 介護福祉全書15「医療的ケア」第2版（中央法規出版）</p> <p>その他 随時資料配布</p>	
備考	<p>1. 医行為としての人の命を守る大切さについての知識と理解を深め、実践できることのみにとらわれず利用者の方の気持ちを尊重する姿勢をもつ。</p> <p>2. 専門知識を深めるために自身でも講義に積極的に参加し、内容についての復習を行うよう努力する。</p>	

科目名	情報機器演習 (Information education)						
学年	1	時期	前期	分野	その他	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	福元進
授業概要	情報機器（アプリケーションソフト）を活用した演習を通し、基本操作の習得ばかりではなく、そこから発展させた応用操作の習得を目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラインドタッチができる。 ・ アプリケーションソフトを使用して課題文書を時間内に完成することができる。 ・ 操作中のトラブルへの対処ができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション（教室の活用、演習の進め方、クラス分け、ファイルの保存）					
	2	WORDの基礎①					
	3	WORDの基礎②					
	4	WORDの基礎③					
	5	WORDの基礎④					
	6	課題文書の作成演習（WORD）					
	7	EXCELの基礎①					
	8	EXCELの基礎②					
	9	EXCELの基礎③					
	10	課題文書の作成演習（EXCEL）					
	11	ビジネス文書の基本（ワープロ検定をベースとした文書レイアウトの基本）					
	12	課題文書の作成演習（WORD・EXCEL）					
	13	課題文書の作成演習（WORD・EXCEL）					
	14	課題文書の作成演習（WORD・EXCEL）					
15	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の講義で作成する文書等の完成度 30% ・ 科目修得試験 60% ・ 出席、受講態度等 10% 						
テキスト 参考文献	<p>使用テキスト 講師作成のプリントを使用 参考文献等 日本語ワープロ検定問題集</p>						
備考							

科目名	介護レクリエーション実践 (Recreation practice)						
学年	1	時期	前期	分野	その他	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	内村仁子(非常勤講師) 他
授業概要	1. レクリエーションの意義や実際を学ぶ。 2. 介護現場のレクリエーション計画を立案する。 3. 介護事業所を訪問し、高齢者とのかかわりを通してレクリエーションの実践力を養う。						
到達目標	8. 介護現場のレクリエーションの意義と実際について理解する。 9. 高齢者の特性に応じたレクリエーション計画を立案できる。 10. 立案した計画に沿ってレクリエーションを実践できる。 11. 実践を振り返り今後の課題を明確にできる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	レクリエーションの意義について					
	2	レクリエーションの実践について					
	3	レクリエーションの実践例					
	4						
	5	介護現場のレクリエーション実技①					
	6	介護現場のレクリエーション実技②					
	7						
	8	レクリエーション計画の立案					
	9	レクリエーション計画の立案・準備					
10							
11	介護事業所訪問(実践)						
12							
13	レクリエーションを実践しての振り返り						
14							
15							
評価方法	レクリエーション計画書、グループ活動の取り組み、レクリエーション実践、実践後の記録を総合的に評価する。						
テキスト 参考文献	随時、資料を配布し、参考文献を紹介する。						
備考	演習では、学校指定の服装を着用する。						

科目名	全学連携演習 1・2 (Cooperative Learning 1・2)						
学年	1・2	時期	前期	分野	その他(医・介) 独自科目(こども)	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	演習	担当講師	各グループ担当教務
授業概要	<p>本校では、医療、介護福祉、保育、幼児教育分野それぞれの専門的な学習を行っている。将来、それぞれの専門職として活躍するためには、他の専門職と連携を図りながら実践していく。その第一歩として、本校で学ぶ仲間と交流を図りながら、自らが学ぶ学習領域以外にも触れていき、その経験を将来それぞれの立場で活用可能なものにしていくことを目的とする。また、自らが学ぶ内容を他学科学生に紹介することで、改めて自らが学ぶ専門性について理解を深めていく。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学年、学科を越えた仲間との積極的な交流を図る。 2. 自らの学習領域以外の分野に触れて理解を深める。 3. 自らが学ぶ専門分野について、他学科の学生に紹介できる。 4. 交流の中で、意見交換を行いながら、各個人が意見や考えを持ち、それをもとに主体的に行動する態度を涵養する。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション・自己紹介					
	2	交流レクリエーション					
	3	学生自らが実施する体験授業の検討、準備					
	4	(今年度の全学連携演習は、自らが在籍する学科で学んでいる内容を他学科の学生に紹介する体験授業を学生自らが実施する。これを実施するための内容検討、企画、準備等をこの回に実施していく。)					
	5	各グループでの体験授業					
	6	(学生自らが企画、準備した体験授業を実施する。)					
	7						
8	振り返り						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>出席状況及び活動状況(60%)、活動記録及び総括レポート提出(40%)</p>						
テキスト 参考文献	別冊「全学連携演習ファイル」						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回活動の際には、別冊「全学連携演習ファイル」を持参しておくこと。 ・ 活動後には、「全学連携演習ファイル」を担当教務に提出すること。 						

科目名	人間の理解Ⅲ (Comprehend of human Ⅲ)						
学年	2	時期	前期	分野	人間と社会	必修選択	必須
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	下徳 雅人(専任教員)
授業概要	<p>介護サービスがヒューマンサービスであることとともに、介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景とチームマネジメントの全体像について学ぶことができる。また、チームでのケアの展開が日々求められていることを確認したうえで、協働のあり方やチームの力を最大限に発揮するための取り組みについて学ぶことができる。さらに、チームの実践力の向上につながる人材育成・自己研鑽について、OJT・Off-JTをはじめとする指導に関する実践理論の活用や、そのしくみについて理解することができる。そのうえで、組織の構造と機能や役割について学び、自分がその一員としてかかわること、さらには、質の高い介護サービスを組織が支えていることなど、介護サービス業界全体を俯瞰的に見る力を養うことができる。</p>						
到達目標	<p>介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方や、ケアを展開するためのチームのあり方や機能、必要な取り組みについて、講義と実習を関連づけながら主体的に学ぶことができる。</p>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 介護実践におけるチームマネジメントの意義①					
	2	介護実践におけるチームマネジメントの意義②					
	3	介護サービスとほかの仕事の違いについて					
	4	ケアを展開するためのチームマネジメント①					
	5	ケアを展開するためのチームマネジメント②					
	6	情報共有の場について (リーダーシップ、フォロアーシップ)					
	7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①					
	8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②					
	9	スーパービジョンの機能について					
	10	組織の目標達成のためのチームマネジメント①					
	11	組織の目標達成のためのチームマネジメント②					
	12	組織の理念について					
	13	視聴覚教材視聴①					
	14	視聴覚教材視聴②					
15	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 70% ・提出物 25% ・受講状況 5%</p>						
テキスト 参考文献	<p>最新 介護福祉士養成講座 1「人間の理解」第2版 中央法規出版 ※その他随時提示</p>						
備 考	<p>1. 1つ1つの講義を聴くことで全体の内容の理解に結びつくため、授業参加、授業態度については自身で留意すること。 2. グループワーク等では、お互いに協力しあい自分の意見を述べること。 3. 他者の意見にも耳を傾け、お互いに学びあう姿勢をもつこと。 4. 提出物は、期日を厳守すること。</p>						

科目名	社会の理解Ⅲ (Comprehend of society Ⅲ)						
学年	2	時期	通年	分野	人間と社会	必修選択	必修
単位数	4	時間数	60	授業形態	講義	担当講師	川野哲朗・下徳雅人 (専任教員)
授業概要	少子高齢社会における高齢者の実態や社会的状況、課題の理解をふまえ、介護保険制度の背景や目的、制度の概要、動向等の基礎知識を習得する。 また、介護実践に関連する諸制度や介護福祉士等専門職の役割について学ぶ。						
到達目標	1. 高齢者福祉の社会的背景、課題について、自身の考えを持ち、表すことができる。 2. 介護保険制度の目的や概要等について説明できる。 3. 介護実践に関連する制度や専門職の役割について説明できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション	学びのルール、他科目との関連、私の介護観 等				
	2	現代社会と高齢者①	高齢者福祉の動向、高齢化と要介護者の現状、課題				
	3	現代社会と高齢者②	社会保障制度と介護保険制度の概要				
	4	現代社会と高齢者③	介護保険制度の背景、目的、対象の多様性				
	5	介護保険制度の仕組み①	介護保険制度の仕組みの概要、財源				
	6	介護保険制度の仕組み②	保険者と被保険者、保険給付の対象				
	7	介護保険制度の仕組み③	介護サービス利用までの流れ				
	8	介護保険制度の仕組み④	介護サービスの種類と内容①				
	9	介護保険制度の仕組み⑤	介護サービスの種類と内容②、介護報酬				
	10	介護保険制度の仕組み⑥	地域支援事業、地域包括ケアシステム				
	11	介護保険制度の関連組織と役割①	国及び都道府県、市町村、国保連の役割				
	12	介護保険制度の関連組織と役割②	サービス事業者、介護支援専門員の役割				
	13	介護保険制度の関連組織と役割③	ソーシャルワークとケアマネジメント				
	14	まとめ	補足、国試対策				
	15	科目修得試験					
	16	介護保険制度の動向①	改正 1～3				
	17	介護保険制度の動向②	改正 4～6、課題と方策				
	18	介護実践に関連する諸制度①	個人の権利と権利擁護について				
	19	介護実践に関連する諸制度②	虐待防止関連制度				
	20	介護実践に関連する諸制度③	成年後見制度、日常生活自立支援制度				
	21	介護実践に関連する諸制度④	個人情報保護、その他の制度				
	22	保健医療に関する制度①	医師法、医療法 他				
	23	保健医療に関する制度②	生活習慣病予防、感染症 他				
24	生活支援に関する諸制度①	生活保護制度の概要					

	25	生活支援に関する諸制度②	生活保護、その他の支援制度
	26	地域生活を支援する制度①	就労支援、雇用促進
	27	地域生活を支援する制度②	住生活、住環境 他、校外学習計画
	28	地域生活を支援する制度③	校外学習（バリアフリー調査）
	29	まとめ	私の介護観、国試対策
	30	科目修得試験	
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 60% ・課題、演習 20% ・ノート（学習プリント等）10% ・受講状況 10%		
テキスト 参考文献	・使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座2「社会の理解」（中央法規） ・参考文献等 福祉小六法（中央法規）、その他随時提示する。		
備考	1. 他の科目や国家試験、実践との関連性を意識して取り組む。 2. 自身の介護観を持つようとする姿勢を大切にし、そのための学びを深める。		

科目名	介護の基本Ⅱ (Basics of caregiving Ⅱ)						
学年	2	時期	通年	分野	介護	必修選択	必修
単位数	6	時間数	90	授業形態	講義	担当講師	千代森 倍世 (専任教員)
授業概要	利用者にとって最も身近な介護従事者が介護実践を行うためには、知識・技術・人間性を統合し多様な介護現場で利用者の生活の安全を守る能力が求められる。そのためにも介護従事者自らの健康や安全が、保証されるべきであることへの認識を深め、リスクマネジメントを実践できる力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護について理解する。 2. 介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいのもてる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のありかたを理解する。 3. 介護福祉士の倫理について、「社会福祉士及び介護福祉士法」の規定のもとに理解することができるとともに、実践の場で倫理がどのように活かせるのかについて理解できる。 4. 生活者として利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全対策、感染対策の重要性について理解できる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション、授業の概要					
	2	私たちの生活の理解					
	3	介護福祉を必要とする人たちの暮らし					
	4	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解					
	5	生活のしづらさの理解とその支援					
	6	利用者の生活を支えるしくみ					
	7	生活を支えるフォーマルサービスとは①					
	8	生活を支えるフォーマルサービスとは②					
	9	生活を支えるフォーマルサービスとは③					
	10	生活を支えるフォーマルサービスとは④					
	11	生活を支えるインフォーマルサービスとは①					
	12	生活を支えるインフォーマルサービスとは②					
	13	地域連携①					
	14	地域連携②					
	15	介護における安全の確保①					
	16	介護における安全の確保②					
	17	リスクマネジメントとは何か①					
	18	リスクマネジメントとは何か②					
	19	感染症対策①					
	20	感染症対策②					
21	介護実践の振り返り①						

授業計画	2 2	介護実践の振り返り②
	2 3	科目修得試験
	2 4	多職種連携・協働の必要性①
	2 5	多職種連携・協働の必要性②
	2 6	多職種連携・協働に求められる基本的な能力①
	2 7	多職種連携・協働に求められる基本的な能力②
	2 8	保健・医療・福祉職の役割と機能①
	2 9	保健・医療・福祉職の役割と機能②
	3 0	多職種連携・協働の実際①
	3 1	多職種連携・協働の実際②
	3 2	健康管理の意義と目的
	3 3	こころの健康管理
	3 4	身体の健康管理
	3 5	労働環境の整備
	3 6	介護福祉士に求められる専門的知識①
	3 7	介護福祉士に求められる専門的知識②
	3 8	介護福祉問題について①
	3 9	介護福祉問題について②
	4 0	介護福祉問題について③
	4 1	介護福祉問題について④
4 2	介護福祉士の資格取得時の到達目標の確認	
4 3	介護福祉士の倫理綱領	
4 4	後期の振り返り	
4 5	科目修得試験	
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 80% レポート内容・提出状況 20%	
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」第2版（中央法規出版） 最新 介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」第2版（中央法規出版） その他 講師作成資料を随時配布、視聴覚教材を随時使用	
備考	1. 新聞等をとおして、社会情勢に目を向け自身で考えることを大切にしてほしい。 2. レポート課題に関しては、参考文献等を検索し主体的に取り組み提出期日を必ず守ること。	

科目名	生活支援技術Ⅱ (Life support technology Ⅱ)						
学年	2	時期	通年	分野	介護	必修選択	必修
単位数	2	時間数	90	授業形態	演習	担当講師	松下 律子 (非常勤講師) 千代森倍世・下徳雅人 (専任教員)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・家事支援を必要とする利用者への家事支援（調理、洗濯、裁縫など）の基本的な家事支援の知識や介護技術を学ぶ。 ・介護保険制度の中でできる家事の範囲を理解し、利用者の生活背景や価値観に配慮しながら、その人らしい生活が継続し、安心して利用者が主体となって生活できるために行う生活支援の考え方を学ぶ。 ・家事の介護における他職種の役割を理解し、介護福祉職との連携の在り方を学ぶ。 ・介護福祉士として生活支援を行う中で必要とされる福祉用具の意義を理解する。 ・生活支援における福祉用具の重要性を理解する。 ・福祉用具の種類を理解する。 ・適切な福祉用具を知るための視点を理解する。 ・加齢に伴う身体機能の低下に対応した生活空間を整備するうえでの留意点を理解する。 ・日常生活での安全な対応策を理解し、緊急時に備えた生活環境を整える方法を理解する。 ・災害時における介護福祉士の活動する場と支援方法を理解する。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家事支援の基本的な知識や介護技術が実践できる。 2. 介護を必要とする利用者の生活歴や価値観を尊重し、その人らしい生活が継続し、安心して利用者が主体となって生活できるために介護福祉職がすべきことが説明できる。 3. 利用者やその家族を支援し、生活を支えるために家事の介護における他職種との連携の在り方が説明できる。 4. 障害の程度や環境に応じた福祉用具を提案できる知識・技術を身に付けることができる。 5. 福祉用具を知ることで正しい使い方を指導できる知識・技術を身に付けることができる。 6. 福祉用具を選ぶためのアセスメント・適合・モニタリングの視点を理解し、実践することができる。 7. 快適な室内環境を整備するための大切な事項を説明できる。 8. 住宅内事故の現状をふまえ、対応策を説明できる。 9. 被災地で活動するときに知っておくべきことを学ぶ。 						
	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション、自立生活を支える家事の基本的な考え方					
	2	自立した家事の一連の流れ 自立に向けた家事の介助と介護福祉職がすべきこと					
	3	自立に向けた家事の介護技術の基礎 食分野 ①栄養素、バランスの良い食事、食文化					
	4	自立に向けた家事の介護技術の基礎 食分野 ②調理の意義 ③調理の介助方法（実技）					

授業計画	5	自立に向けた家事の介護技術の基礎 食分野 ④調理の基本（調理技術の工夫）（食品の保存、衛生管理）
	6	自立に向けた家事の介護技術の基礎 食分野 ⑤調理実習 調理支援の在り方 介護食の技術習得（実技）
	7	自立に向けた家事の介護技術の基礎 食分野 ⑥調理実習 食事介助の工夫（実技）
	8	自立に向けた家事の介護技術の基礎 食分野 ⑦高齢者の疾病と食事、高齢者の食育
	9	自立に向けた家事の介護技術の基礎 衣分野 ①被服の管理（洗濯・衛生管理・たたみ方）（実技）
	10	自立に向けた家事の介護技術の基礎 衣分野 ②被服の管理（縫製）（実技）
	11	自立に向けた家事の介護技術の基礎 衣分野 ③寝具の衛生管理（実技）
	12	自立に向けた家事の介護技術の基礎 衣分野 ④着脱衣の援助（実技）
	13	自立に向けた家事の介護技術の基礎 家計管理 ①買い物の意義と支援の在り方、消費者教育からの支援
	14	自立に向けた家事の介護技術の基礎 家事の介護における多種目との連携
	15	科目修得試験
	16	オリエンテーション（自己紹介 福祉用具取り扱いについて）
	17	福祉用具とは
	18	公的制度における福祉用具の給付の変遷
	19	福祉用具を使用する意義
	20	介護ロボットの開発・活用にみるこれからの福祉用具の可能性
	21	福祉用具の分類
	22	公的制度における福祉用具サービス
	23	適切な福祉用具を選ぶための視点
	24	福祉用具に関するリスクとリスクマネジメント
	25	福祉用具の提供プロセス
	26	福祉用具を選ぶためのアセスメントの視点
	27	福祉用具の適用・モニタリングの視点
	28	福祉用具のタイプによる違い（演習）
	29	生活環境と福祉用具の関連性（演習）
	30	科目修得試験
	31	オリエンテーション 住いの役割と機能①

	3 2	住いの役割と機能②・生活空間①
	3 3	生活空間②
	3 4	快適な室内環境①
	3 5	快適な室内環境②
	3 6	安全に暮らすための生活環境①
	3 7	安全に暮らすための生活環境②
	3 8	安全に暮らすための生活環境③
	3 9	高齢者・障害者の住まい
	4 0	居住環境の整備における多職種との連携
	4 1	被災地で活動する際の心構え
	4 2	災害時における生活支援①
	4 3	災害時における生活支援②
	4 4	まとめ
	4 5	科目修得試験
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>○松下律子・・・科目修得試験 60% 小テスト 20% 提出物 20%</p> <p>○下徳雅人、千代森倍世・・・科目修得試験 60% 演習・レポート課題 30%</p> <p style="text-align: center;">受講状況 10%</p>	
テキスト 参考文献	<p>使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」（中央法規出版）</p> <p>参考文献 潜在力を引き出す介助 （中央法規出版）</p> <p>家庭でできる 高齢者ソフト食レシピ （河出書房新社糖）</p> <p>日本食品成分表 八訂版</p> <p>その他 講師準備資料をその都度配布</p>	
備考	<p>担当者内訳</p> <p>第 1 回～第 1 5 回 松下 律子</p> <p>第 1 6 回～第 3 0 回 下徳 雅人</p> <p>第 3 1 回～第 4 5 回 千代森倍世</p> <p>学習ノートを配布する。毎回、授業のポイントや自己評価及び感想を記入し、自分の考え方、思いをしっかりと記述する。</p>	

科目名	生活支援技術Ⅳ (Life support technology Ⅳ)						
学年	2	時期	通年	分野	介護	必修選択	必修
単位数	3	時間数	90	授業形態	演習	担当講師	下徳 雅人(専任教員)
授業概要	介護を要する人たちが尊厳をもって、日々その人らしく暮らしていくことができるように支援するための考え方や技法の習得を目指す。障害などがあっても、本人が望む暮らしが継続できるような個別性を重視した介護の展開を実践できる力を養う。また、利用者の心身の状態に応じた適切な生活支援技術を提供するために、基本介護技術を応用技術に発展させて、安全・安楽に支援できる知識や援助方法を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象となる人の障害を理解し、根拠のある生活支援技術を習得することができる。 2. ICFの視点に基づくアセスメントを活用し、利用者の個別性に応じた自立・自律や社会参加に向けた生活支援を理解することができる。 3. 介護は、4領域科目との関連性に基づいた実践科学であることを理解できる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術					
	2	肢体不自由に応じた介護					
	3						
	4	視覚障害に応じた介護					
	5						
	6	聴覚・言語障害に応じた介護					
	7						
	8	重複障害(盲ろう)に応じた介護					
	9						
	10	心臓機能障害に応じた介護					
	11						
	12	呼吸器機能障害に応じた介護					
	13						
	14	腎臓機能障害に応じた介護					
	15						
	16	膀胱・直腸機能障害に応じた介護					
	17						
	18	小腸機能障害に応じた介護					
	19						
	20	HIVによる免疫機能障害に応じた介護					
	21						
	22	科目修得試験					
	23	肝臓機能障害に応じた介護					
24							

	25	重症心身障害に応じた介護
	26	
	27	知的障害に応じた介護
	28	
	29	精神障害に応じた介護
	30	
	31	高次脳機能障害に応じた介護①
	32	
	33	高次脳機能障害に応じた介護②
	34	
	35	発達障害に応じた介護
	36	
	37	筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護／パーキンソン病に応じた介護
	38	
	39	悪性関節リウマチに応じた介護／筋ジストロフィーに応じた介護
	40	
	41	難病の理解（映画）
	42	
43	自助具を使った調理実習	
44		
45	科目修得試験	
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 70% ・レポート課題 25% ・受講状況 5%	
テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」第2版 中央法規出版 ※その他随時提示	
備考	1. 演習時の容姿は整え、主体的に参加し協力して行うこと。 2. 行う行為に対しては常に根拠を意識し、自己を振り返りながら臨むこと。 3. 提出物は期日を厳守すること。	

科目名	介護過程Ⅱ (Nursing care process Ⅱ)						
学年	2	時期	前期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	田中 龍子 (専任教員)
授業概要	介護過程とは、個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者のQOL向上に向けて、個別に計画を立案し、実施・評価していく一連の流れについて、演習を通してさらに理解を深め実践力を養う。						
到達目標	1. ICF の概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し、活用・発揮することの意義について理解することができる。 2. 利用者が主体的な生活が送れるように、自立支援に沿った介護計画を立案するため、一人ひとりの状態を的確に把握することができる。 3. 利用者を取り巻く環境を意識し、常に社会の動きに関心を持つことの重要性と、社会資源を活用する方法を理解できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション					
	2	介護過程の実践的展開	事例検討①	(個人ワーク)			
	3	介護過程の実践的展開	事例検討①	(個人ワーク)			
	4	介護過程の実践的展開	事例検討①	(グループワーク)			
	5	介護過程の実践的展開	事例検討①	(グループワーク)			
	6	介護過程の実践的展開	事例検討発表①	(グループ発表)			
	7	介護過程の実践的展開	事例検討②	(個人ワーク)			
	8	介護過程の実践的展開	事例検討②	(個人ワーク)			
	9	介護過程の実践的展開	事例検討②	(グループワーク)			
	10	介護過程の実践的展開	事例検討②	(グループワーク)			
	11	介護過程の実践的展開	事例検討発表②	(グループ発表)			
	12	介護過程の実践的展開	事例検討③	(個人ワーク)			
	13	介護過程の実践的展開	事例検討③	(個人ワーク)			
	14	介護過程の実践的展開	ワークの提出/試験対策				
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 50% ・演習課題 50%						
テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座9「介護過程」第2版 中央法規出版 森 繁樹著「事例で読み解く介護過程の展開」初版 中央法規 2015年 ※その他随時提示						
備考	1. 講義やグループワークに主体的に参加し、自分の意見を述べること。 2. 他者の意見にも耳を傾け、互いに学び合う姿勢を持つこと。 3. 提出物は期日を厳守すること。						

科目名	介護過程Ⅲ (Nursing care process Ⅲ)						
学年	2	時期	後期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	田中 龍子 (専任教員)
授業概要	多様なニーズに応えるためのチームアプローチの方法について理解し、他職種との連携について理解を深める。介護実習ⅡBで受け持ったケースを基に、各々が介護福祉職としての専門性、倫理性を高めるとともに、尊厳を基盤とした学問的体系を目指すための研究的態度を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立度や生活の場に応じた介護、医療・保健との連携協働を必要とする介護、終末期における介護の展開など、様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解できる。 2. 介護実践をする上で、利用者を主体とした介護計画を考えその根拠を説明できる。 3. 介護を考える視野を広く持ち、考察する力・介護者として自己成長させる態度を養うことができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	介護実習ⅡB 帰校日	自己学習、巡回教員の指導を仰ぐ				
	2	介護実習ⅡB 帰校日	自己学習、巡回教員の指導を仰ぐ				
	3	介護実習ⅡB 帰校日	自己学習、巡回教員の指導を仰ぐ				
	4	介護過程のまとめ	介護過程Ⅲの内容・進め方や課題について説明				
	5	事例研究導入	受け持ちケースをサマリーにまとめる				
	6	事例研究の展開	事例研究について説明				
	7	事例研究の展開	事例研究について説明				
	8	事例研究の展開	各自研究				
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						

	27 28	事例研究発表
	29 30	事例研究発表
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・事例研究評価 80% ・平常点 20%	
テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座9「介護過程」第2版 中央法規出版 ※その他随時提示	
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義や実習等を通して学んだ専門的知識を活用し、介護の根拠について理解を深めることができるよう積極的に取り組むこと。 2. 2年間の学びの集大成となるよう、各自努力し研鑽を深めること。 3. 提出物は期日を厳守すること。 	

科目名	介護総合演習Ⅱ (Case Study of social care Ⅱ)						
学年	2	時期	通年	分野	介護	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	下徳 雅人(専任教員)
授業概要	講義や生活支援技術等の演習で学んだことを、実習先で一人ひとりの要介護者の生活支援に活かすためには、知識や技術の統合力や応用力、実践力が必要になる。次段階実習に向けて、自己課題に取り組む姿勢を強化し、他職種との連携、緊急時の対応法などを学ぶ。また、専門科目で学んだことを実習先で役立てられるよう、関心をもつことの大切さや疑問、不安等を解決していく能力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習に向けての心構えや、予備知識、動機づけ等の準備や実習後の振り返りを行うことで、効果的な介護実習を行えるようにする。また、さまざまな生活ニーズを持った利用者に対し多様なサービスを提供するためには、他職種協働の意義や役割を理解することが重要である。これまで学んだ知識、技術を実習で展開するための柔軟性や応用力、判断力などを養う。 2. 介護実習での体験を振り返り、自己の言動を具体的に言語化できる。 3. 個別ケアや多様なサービス形態のあり方を理解できる。 4. 介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確にできる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	年間の実習計画を理解し、介護実習ⅡBの関係書類を作成する。(証明写真撮影)					
	2	介護保険サービスについて(グループワーク)					
	3						
	4						
	5						
	6						
	7	実習記録の確認					
	8	介護実習ⅡBについて 意義・目的の理解					
	9	介護実習ⅡB実習の展開					
	10						
	11						
	12						
	13	介護実習ⅡBについて 事前学習(グループワーク発表)					
	14						
	15						
	16						
	17	介護実習ⅡBについて 実習目標立案					
	18	介護実習ⅡBに向けての諸注意					
	19						
20							

	21	事前オリエンテーション参加
	22	事前オリエンテーションのまとめ
	23	巡回教員との打ち合わせ
	24	介護実習ⅡB 報告会について（記録物等整理／各自振り返り／資料作成）
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	介護実習ⅡB 実習報告会
	30	
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・課題提出状況 50% ・受講状況 10%	
テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」（中央法規） 参考文献等 介護実習要項	
備考	1. グループワーク等では、お互いに協力しあい自分の意見を述べること。 2. 他者の意見にも耳を傾け、お互いに学びあう姿勢をもつこと。 3. 日頃から、他者から見た自分を意識して振り返りを行う。	

科目名	介護実習ⅡB (Care practice ⅡB)						
学年	2	時期	後期	分野	介護	必修選択	必修
単位数	4	時間数	180	授業形態	実習	担当講師	千代森倍世・下徳雅人 田中龍子（専任教員）
授業概要	<p>利用者の個別性や人権を尊重した生活支援技術を展開し、ニーズに応じた介護計画の実践ができる。</p> <p>専門職としての倫理観を高め、介護観を深めることができる。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者に必要な情報収集ができ、ニーズに沿った介護計画の立案・実践ができる。 2. 介護計画の実施により評価・修正ができる。 3. 利用者の個別性に応じたコミュニケーションを理解し実践することができる。 4. 利用者の心身機能に応じた生活支援技術が展開できる。 5. 施設が実施するレクリエーションに参加し、利用者に適したレクリエーションの計画・実践が理解できる。 6. 施設カンファレンス等に参加し、情報の共有を図るとともに多職種連携の必要性について理解できる。 7. 自己の介護実践を振り返り、介護観を深めることができる。 						
授業計画	日数	授 業 内 容					
	20日 間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の概要を理解する 2. 実習の意義、目標について考え実習への意欲を高める 3. 個別介護計画の必要性を学び、介護計画を立て実践し評価する 4. 利用者の日常生活援助の支援方法を学ぶ 5. 施設における安全対策について学ぶ 6. 介護福祉士としての職業倫理、社会的役割、チームワークの必要性について学ぶ 7. 終末期の介護について学ぶ 					
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>実習指導者よりの評価及び実習巡回教員よりの評価</p>						
テキスト 参考文献	<p>参考文献 介護実習要項（宮崎医療管理専門学校 介護福祉科）</p> <p>最新 介護福祉士養成講座シリーズ第2版（中央法規出版）</p>						
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の目的および目標を理解したうえで、実習前に立案した各自の実習目標を達成できるようにする。 2. 介護福祉士として、本校学生としての自覚を持って実習に臨むこと。 						

科目名	認知症の理解Ⅱ (Comprehend of dementia Ⅱ)						
学年	2	時期	前期	分野	こころとからだのしくみ	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	千代森 倍世 (専任教員)
授業概要	認知症に関する基礎的知識をもとに、地域社会や社会制度などの人間関係や生活環境について学びを深め、サポート体制の重要性について理解する。さらに、介護福祉士として当事者本人のみならず家族への支援を行うために、他職種や地域との連携や協働について考え、継続的ケアの必要性を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症のある人の特徴的な心理と行動を理解することができる。 2. 本人を取り巻く家族や、周囲の環境に配慮した介護の視点を習得することができる。 3. 家族や地域との具体的連携のためのネットワークや、社会資源について理解することができる。 4. 認知症のある人や家族を支えるためのアセスメントシートについて学び、介護過程の視点を持って具体的援助方法を導き出す力を養うことができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	認知症の理解Ⅰの振り返り					
	2	認知症の人の行動・心理症状 (BPSD)					
	3	認知症の人の行動・心理症状 (BPSD)					
	4	認知症に伴う心と身体の変化と日常生活への影響					
	5	センター方式					
	6	センター方式					
	7	センター方式					
	8	具体的連携のためのネットワークや社会資源					
	9	認知症のある人や家族を支える支援 (事例検討①)					
	10	認知症のある人や家族を支える支援 (事例検討①)					
	11	認知症のある人や家族を支える支援 (事例検討②)					
	12	認知症のある人や家族を支える支援 (事例検討②)					
	13	認知症の人の心理的理解 (映画)					
	14	認知症の人の心理的理解 (映画)					
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 科目修得試験 70% ・ レポート課題 25% ・ 受講状況 5%						
テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」 第2版 中央法規出版 ※その他随時提示						
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義やグループワークに主体的に参加し、自分の意見を述べること。 2. 他者の意見にも耳を傾け、互いに学び合う姿勢を持つこと。 3. 提出物は期日を厳守すること。 						

科目名	障害の理解 I (Comprehend of disability I)						
学年	2	時期	前期	分野	こころとからだのしくみ	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	松浦ゆう子 (非常勤講師) 宮下清子(専任教員)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のある人を理解するために、障害に関する基本的知識を習得するとともに、人間の尊厳を基調とした、リハビリテーション等の理念を理解し、介護に従事する者としての視点を習得する。 2. さまざまな障害のある人の生活支援のあり方を習得する。 3. 障害のある人の生活に関わる関係機関との連携を理解し、家族への配慮についても理解する。 4. さまざまな障害のある人の生活に合わせた関わり方を考察し、介護の現場における専門職の役割について理解する。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の捉え方について理解できるようになること。 2. リハビリテーションの理念について理解できるようになること。 3. さまざまな障害の特性について説明できる。 4. さまざまな障害のある人の家族への支援について一人ひとりの状況に合わせたコミュニケーションのあり方を考察し応用できる。 5. 利用者の方の生活に関わる専門職の役割について考えを述べることができる。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション・講義の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の講義の進め方について説明 ・講義内容の概要説明 ・障害、リハビリテーションに関する知識の確認 					
	2	障害の基礎的理解・障害の概念 <ul style="list-style-type: none"> ・障害のとらえ方 ・ICIDH、ICFの理解 					
	3	障害の基礎的理解・障害の概念 <ul style="list-style-type: none"> ・実際のケース例をとおして、障害の捉えかた(ICIDH、ICF)の理解を深める。 					
	4	障害の基礎的理解・障害福祉の基本理念 <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの理念 					
	5	障害の基礎的理解・障害福祉の基本理念 <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念 ・リハビリテーションという言葉の意味 ・リハビリテーションの理念の発展 					
6	障害の基礎的理解・障害福祉の基本理念 <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの体系 医学的リハビリテーション 教育的リハビリテーション 社会的リハビリテーション 職業的リハビリテーション						

	7	障害の基礎的理解・障害福祉の基本理念 ・リハビリテーションの体系	障害のレベルとリハビリテーション リハビリテーションに関わる専門職
	8	科目修得試験	
	9	はじめに 知的障害のある人の生活の理解①：障害の特性、生活支援	
	10	知的障害のある人の生活の理解②：ライフステージに応じた関わり方	
	11	発達障害のある人の生活の理解②：障害の特性、生活支援	
	12	発達障害のある人の生活の理解②：保護者支援、関係機関との連携	
	13	重複障害のある人の生活の理解：障害の特性、生活支援	
	14	重症心身障害のある人の生活の理解：障害の特性、生活支援	
	15	家族への支援	
	16	科目修得試験	
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 80% 提出物・受講状況 20%		
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」第2版（中央法規出版） その他 講師作成資料配布		
備考	担当者内訳 第1回～第8回 松浦ゆう子 第9回～第16回 宮下 清子 テキストを基本として講義が進められる。講義では常にリハビリテーションの理念を 模索し疑問を持ちながら参加する。 配布資料をしっかりと整理・保管すること		

科目名	障害の理解Ⅱ (Comprehend of disabilityⅡ)						
学年	2	時期	後期	分野	こころとからだのしくみ	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	田中龍子(専任教員)
授業概要	1. 障害のある利用者を理解するために、心身の機能について学ぶ。 2. 日常生活にどのような理解や介護視点を持つことが必要かについて理解する。 3. 各福祉制度やサポート体制、多職種連携のあり方について理解する。						
到達目標	1.3. 日常生活に及ぼす影響を理解し、日常における生活支援方法を習得する。 2. 障害の知識や具体的症状を理解し、自立に向けてどのような介護が望ましいか理解できる。 3. 障害の種類や特性に応じた、医療職との連携について理解できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	視覚障害	・原因	・特性の理解	・特性に応じた支援		
	2	聴覚障害	・原因	・特性の理解	・特性に応じた支援		
	3	言語障害	・原因	・特性の理解	・特性に応じた支援		
	4	内部障害について(グループワーク)					
	5	① 心臓機能障害 ②呼吸器機能障害 ③腎臓機能障害 ④膀胱・直腸機能障害					
	6	⑤ 小腸機能障害 ⑥ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 ⑦肝機能障害 ・原因 ・特性の理解 ・特性に応じた支援 発表準備及び各機能障害について自己学習					
	7	内部障害について	各グループ発表後、教員説明				
	8	内部障害について	各グループ発表後、教員説明				
	9	内部障害について	各グループ発表後、教員説明				
	10	内部障害について	各グループ発表後、教員説明				
	11	精神障害	・原因	・特性の理解	・特性に応じた支援		
	12	難病	・原因	・特性の理解	・特性に応じた支援		
	13	ビデオ	「難病に生きる人の理解」				
	14	国家試験対策指導					
15	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 70%、演習課題 25%、平常点 5%						
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」第2版(中央法規出版) その他 スライド使用、随時資料配布						
備考	1. 講義を聴く姿勢を大事にすること。 2. 専門用語について、理解できるよう主体的に取り組むこと。						

科目名	こころとからだのしくみⅢ (Mechanism mind and body work Ⅲ)						
学年	2	時期	前期	分野	こころとからだのしくみ	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	椎屋 良子 (専任教員)
授業概要	介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能および介護サービスの提供における安全への留意点などについて学習する。こころとからだのしくみⅢにおいては、生活場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活場面ごとに（排泄、休息、睡眠等）こころとからだのしくみ、心身機能低下や障害が生活に及ぼす影響を理解する。 変化に対する観察のポイントを学ぶ。 医療職との連携のポイントを学ぶ。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	排泄に関連したこころとからだのしくみ① ・なぜ排泄をするのか ・排泄に関連したこころとからだのしくみ①					
	2	排泄に関連したこころとからだのしくみ② ・排泄に関連したこころとからだのしくみ②					
	3	排泄に関連・移動に関連したこころとからだのしくみ③ ・尿排泄と便排泄のしくみ ・利用者の状態から考える排泄の問題点とその原因 (演習)					
	4	排泄に関連したこころとからだのしくみ④ ・精神機能低下が移動に及ぼす影響 ・身体機能低下が及ぼす影響 ・排尿障害の種類と特徴 (演習) ・便失禁の原因 (演習)					
	5	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑤ ・排泄での観察のポイント ・排泄での医療職との連携のポイント					
	6	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ① ・なぜ睡眠をとるのか ・睡眠のしくみ ・睡眠の質を高める					
	7	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ② ・レム睡眠とノンレム睡眠 (演習) ・快適に眠るための寝室の工夫 (演習)					
	8	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ③ ・休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下 ・睡眠障害 ・睡眠不足が及ぼす影響					
	9	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ④ ・睡眠での観察のポイント ・睡眠での医療職との連携のポイント					
	10	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ① ・死のとりえ方 ・看取り取りに関わる人の価値観 ・終末期 (ターミナル期)					
	11	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ② ・「死に対するこころの変化・「死」を受容する段階・家族が死を受容できるための支度					

	1 2	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ③ ・ 終末期からの危篤状態、死後のからだの理解 ・ 終末期のバイタルサインの変化
	1 3	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ④ ・ 終末期における医療職との連携 ・
	1 4	ふりかえり
	1 5	科目修得試験
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・ 科目修得試験 80% ・ 授業姿勢 20%	
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉士養成講座 11「ところとからだのしくみ」（中央法規出版） 参考文献 イラストで学ぶ解剖学 松村譲児 2000年 医学書院 よくわかる解剖整理 竹内 修二 1995年 医学芸術社	
備考		

科目名	医療的ケアⅡ (Medical careⅡ)						
学年	2	時期	前期	分野	医療的ケア	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	椎屋良子・田中龍子 (専任教員)
授業概要	1. 根拠に基づいた知識のもとに、安全に実施できる技術を学ぶ。 2. 人間の生命を守る行為であることを認識できる。 3. 実践できる判断力・総合力を養うことができる。						
到達目標	1. 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部吸引が、シュミレーターを用いて根拠に基づいた実施ができる。 2. 胃ろう・腸ろう・経鼻の経管栄養を、シュミレーターを用いて根拠に基づいた実施ができる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 各吸引内容についての注意事項 説明					
	2	①胃ろう・腸ろうの経管栄養手順・注意事項説明					
	3	②口腔内吸引手順・注意事項説明					
	4	③経鼻の経管栄養手順・注意事項説明					
	5	④鼻腔内吸引手順・注意事項説明					
	6	①③について、実施手引きにそってグループ演習					
	7	⑤気管内吸引手順・注意事項説明					
	8	①②③④⑤について、実施手引きにそってグループ演習					
	9	①②③④⑤について、実施手引きにそってグループ演習					
	10	①②③④⑤について、実施手引きにそってグループ演習					
	11	①②③④⑤について、実施手引きにそってグループ演習					
	12	①②③④⑤について、実施手引きにそってグループ演習					
	13	①②③④⑤について、実施手引きにそってグループ演習					
	14	①②③④⑤について、実施手引きにそってグループ演習					
15	①②③④⑤について、科目修得試験 (実技試験)						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 (喀痰吸引・経管栄養)						
テキスト 参考文献	使用テキスト 最新 介護福祉全書15「医療的ケア」第2版 (中央法規出版) その他 随時資料配布						
備考	1. グループ演習形式で実施するため、自身の進捗状況を図るだけでなくグループ全体が同一の取り組みができ、技術向上できる姿勢を心がける。 2. 技術向上のため積極的に参加し、内容についての復習をおこなうこと。 3. 人の命を守る行為の演習であることを念頭に丁寧に、謙虚に取り組む姿勢をもつ。						

科目名	全学連携演習 1・2 (Cooperative Learning 1・2)						
学年	1・2	時期	前期	分野	その他(医・介) 独自科目(こども)	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	演習	担当講師	各グループ担当教務
授業概要	<p>本校では、医療、介護福祉、保育、幼児教育分野それぞれの専門的な学習を行っている。将来、それぞれの専門職として活躍するためには、他の専門職と連携を図りながら実践していく。その第一歩として、本校で学ぶ仲間と交流を図りながら、自らが学ぶ学習領域以外にも触れていき、その経験を将来それぞれの立場で活用可能なものにしていくことを目的とする。また、自らが学ぶ内容を他学科学生に紹介することで、改めて自らが学ぶ専門性について理解を深めていく。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学年、学科を越えた仲間との積極的な交流を図る。 2. 自らの学習領域以外の分野に触れて理解を深める。 3. 自らが学ぶ専門分野について、他学科の学生に紹介できる。 4. 交流の中で、意見交換を行いながら、各個人が意見や考えを持ち、それをもとに主体的に行動する態度を涵養する。 						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション・自己紹介					
	2	交流レクリエーション					
	3	学生自らが実施する体験授業の検討、準備					
	4	(今年度の全学連携演習は、自らが在籍する学科で学んでいる内容を他学科の学生に紹介する体験授業を学生自らが実施する。これを実施するための内容検討、企画、準備等をこの回に実施していく。)					
	5	各グループでの体験授業					
	6	(学生自らが企画、準備した体験授業を実施する。)					
	7						
	8	振り返り					
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>出席状況及び活動状況 (60%)、活動記録及び総括レポート提出 (40%)</p>						
テキスト 参考文献	別冊「全学連携演習ファイル」						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回活動の際には、別冊「全学連携演習ファイル」を持参しておくこと。 ・ 活動後には、「全学連携演習ファイル」を担当教務に提出すること。 						

令和5年度
教 育 要 項

発行日 令和5年4月1日

学校法人 東洋学園
宮崎医療管理専門学校
教務部 介護福祉科

〒889-1701 宮崎県宮崎市田野町甲1556-1

TEL 0985-86-2271

FAX 0985-86-2273

URL <http://www.toyomc.jo>